

とちぎスポーツ医科学センターにおける事例

【内 容】

センター概要

サポート内容

持続的な強化・支援に対する課題

池田 達昭

センター概要

- ・ 2020年設置
- ・ 県スポーツ協会による指定管理
- ・ 事務スタッフ3名， 専門スタッフ6名， 外部委託スタッフ2名
- ・ 県内の7大学， 19医療機関などと連携
- ・ 「体力測定」
「パフォーマンス分析サポート」 「分野サポート」
年間， 10,000人程度の利用
- ・ 自立して， 課題解決のできる選手・指導者を育成
- ・ SNSを用いた積極的な活動
- ・ HPSCネットワーク連携機関

サポート内容

【パフォーマンス分析サポート】

動作分析, 映像情報提供, レース分析, ゲーム分析

【分野サポート】

心理 → 外部スタッフ

トレーニング

栄養 → 外部スタッフ

医事 → 外部スタッフ

持続的な強化・支援に対する課題

1. 地域スポーツ医・科学センターが備えるべき機能
2. 県における強化・支援予算の確保
3. 地域における医・科学支援ネットワークの整備

地域スポーツ医・科学センターが備えるべき機能

- ①スタッフの能力・資質，支援内容・範囲
- ②必要な施設・配置，測定機器，プロトコール
- ③関連機関との連携
- ④NFとPFとの連携
- ⑤地域の役割，各県の独自性

国が考える，おおよその基準

県における強化・支援予算の確保

- ①PFに，医科学の重要性を理解してもらう。
- ②国における強化・支援費の基準を示してもらう。
 - ・ 国体後は，一般強化費からの支出
（予算の縮小，詳細は，角田委員より説明）
- ③国と地域とが連携した強化・支援プロジェクト
 - ・ 委託事業

地域で行うべき課題解決の事業展開

地域における医・科学支援ネットワークの整備

①HPSCネットワーク連携機関

- ・ 弊センターだけでは貢献が小さい.
- ・ NTCとの関係

②地域ブロックの形成とプロジェクト事業の展開

- ・ ハブ機関と連携機関, 人材の配置
- ・ 事業に対する国からの補助

地域特性に即した支援環境の整備